



出山
通平
藤
栗
毛
部
下

^ 13
3664
2



門 へ 13
號 3664
卷 2

遠門
相
長

大山 導
藤 栗毛初編下

江戸 龍亭鯉丈著

徳部 福七の狂言が口まき品川の宿を通る
敷 岡 鈴 久 美 也 越 今 大 森 の 村 あり 福
徳 さん 大 山 三 郎 げ の 陰 夜 奪 野 の 爰 徳
爰 の 門 が 細 工 を す ぬ の 福
え へ る 大 き な 家 の 和 中 どの 内 福
た だ かん 徳 一 お 徳 さん 和 中 さん

やしつらうんちのぐりなまきやし 倭「アイニ様
 知てんこしむト あつこしむ 倭「いのうらんせん
 せうごの。アノ藩中ちゆうちゆうのれとせんたうく 倭「そまの由
 だうけがふごだうけご。あひうこちうが方かたのもあ
 ならん。あるく 倭「草とくうのあ 倭「清き
 だういふんああア。アをぬき 倭「しんまのあ。あ
 ぬきも清あつくし 倭「福とら 倭「あふがあ 倭「あふの客
 の権けん 倭「アスとふたのあ 倭「アハむんて 倭「あふの

だういふんああア。アをぬき 倭「しんまのあ。あ
 ぬきも清あつくし 倭「福とら 倭「あふがあ 倭「あふの客
 の権けん 倭「アスとふたのあ 倭「アハむんて 倭「あふの
 だういふんああア。アをぬき 倭「しんまのあ。あ
 ぬきも清あつくし 倭「福とら 倭「あふがあ 倭「あふの客
 の権けん 倭「アスとふたのあ 倭「アハむんて 倭「あふの
 だういふんああア。アをぬき 倭「しんまのあ。あ
 ぬきも清あつくし 倭「福とら 倭「あふがあ 倭「あふの客
 の権けん 倭「アスとふたのあ 倭「アハむんて 倭「あふの
 だういふんああア。アをぬき 倭「しんまのあ。あ
 ぬきも清あつくし 倭「福とら 倭「あふがあ 倭「あふの客
 の権けん 倭「アスとふたのあ 倭「アハむんて 倭「あふの

さまふらふらへり氣のどくど 亭「イヤモ山籠る
 出来ませぬが毎歳あげ付らすくしよる山籠
 酒をうりさへあげまはしよぶくしよる山籠
 ちと 徳「どよど福と妙なりしうらた
 おまがちそらうどらう徳残のらう 福「是年
 天如来「どらう徳帝を清さぬのらうく山籠
 ありらうしよらう 徳「ナニさへなるしよらう
 がゆらうく吞がらう 福「イヤモ山籠る

載きまはし。イヤせうどらうのらうしよらう
 ね入りまはし酒とさうらうどらうのらうしよらう
 徳があるよ 福「イヤモ山籠る
 徳けね入り 徳「イヤモ山籠る
 徳「イヤモ山籠る
 徳「イヤモ山籠る
 徳「イヤモ山籠る

一ト晚ひよるとめくちるさうでもあそくやつこの中なかにのまま新あらたが
 あつあつころころけつるに薄中うすぢゆうを固きこ合せくあんんこが
 だまもおが賞入あがりなるといふころあつあつこころりつころ
 たらふあつあつころあつあつと薄中うすぢゆうといふあつあつあつ入あつりの方かたで
 も世せい活かつめめころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 中なかににあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 が相あひ違ちがひひもあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた

一トあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた
 ころころあつあつころころあつあつころころあつあつあつ入あつりの方かた

日^ち馳^そきせし^とく^くあ^らし^と。飯^いる^ふ。後^の長^も。さ^らに^ち。
 ひ^いつ^つあ^でよ^くあ^らし^と。て^いる^る。世^の世^の世^の活^及の^名。
 や^中で^も古^い人^をか^いへ[。]。あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 なる^化の^皮が^あら^しと^いふ^事。^事。あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 の^左か^うら^しへ[。]。あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 へ[。]。あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く

の^あら^しと^いふ^事。^事。あ^らし^とは^えん^く
 ひ^いつ^つあ^でよ^くあ^らし^と。
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く
 あ^らし^とへ[。]。あ^らし^とは^えん^く

八七

三三三

のらんの 茶屋 ^{ちや} ハイおつろつろ ^{おつろ} ねがう ^{ねが} まく。ハイおつろつろ ^{おつろ} 大さぶら ^{ちや} 山 ^{やま} 地 ^ぢ 走 ^{はし} る ^る かな ^か なる ^な 中 ^{ちゆう} 一 ^{いち} 。

徳「^{ちや} 茶屋 ^{ちや} 中 ^{ちゆう} 一 ^{いち} 名 ^な 家 ^け 一 ^{いち} 由 ^{よし} 名 ^な 家 ^け 一 ^{いち} 下 ^{した} 下 ^{した} 。

茶屋 ^{ちや} の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

福「^{ちや} 茶屋 ^{ちや} の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

ちや ^{ちや} の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

さ ^さ へ ^へ の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

つ ^つ の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

な ^な の ^の 出 ^で ら ^ら せ ^せ 。

だがまぢま。Dama ~ ~ のさるうま。^たま ^たま
 Dama ~ ~ のさるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 まぢま。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 おるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 し。まぢま。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 まぢま。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 だ。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~

さいに。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さいに。さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~
 さるうま。~ ~ けり。さるうま。~ ~

さいに

さいに

かんじくちぬ。一はさへいりていかにぞ。
かんじくちぬ
 ねる。ふくろをこむるをいひしひと。
ねる
かんじくちぬ
ねる
 まましつせんはまのむくきと。
まましつせん
かんじくちぬ
 のりたけいふ
 うちりかしてアかしくいれどト
うちりかして
かんじくちぬ
 ころんととまらぬふろでけりめりうりうり福はまのむくきと
ころんととまらぬ
かんじくちぬ
 まるいふまのむくきの福はまのむくきと
まるいふまの
かんじくちぬ
 務もいへてはまのむくきの福はまのむくきと
務もいへて
かんじくちぬ

ぞよすのり見ろト
ぞよすのり
 壇イ一ライ福セヤイ〜ヒキラクハガこぬまへ
壇
イ
かんじくちぬ
 こららガイ砕くみるうりうり福はまのむくきと
こららガ
イ
かんじくちぬ
 を洗ひとふ。コレサひ〜とまらぬとせよト
を洗
ひ
かんじくちぬ
 あ〜ひ福をすそらく砕ハ福「徳きんあむた〜とせよト
あ〜ひ
かんじくちぬ
 ため。まじり〜とまらぬとせよト
ため
かんじくちぬ
 き〜ら〜とせよト
き〜ら〜
かんじくちぬ
 ことゝなる〜とせよト
ことゝなる〜
かんじくちぬ

たをきだるる。其をんてちんでくの火火消けすも
ひのひとせせ 福ふく「まへまへこころろくくののああららひひののも
見みへへるる。下下宗宗有有遠遠くく此此解解ららんんとといいふふ人人

福ふく「妹妹ささららのの甘甘いいををああままくくししのの降降のの夕夕夜夜

よねままんんぢぢううととああひひつつてて入入けけん

後ご「ままこころろくくででももねね入入哥ごののよよううああままははららいい時ときは
聖せいのの氣き愛あいののかかんんとといいふふ人人 聖せい「いいつつももああままははららいいと
中ちゆう「ままははららいい

後ご「石いしうう一いち巻まき入いれ巻まき見み材ざいとといいふふ人人

まままま甘あまいいささののみみののつつててすすれ

後ご「福ふく七しちとといいふふ狂くるああららううくくああららいいたためめのの福ふく

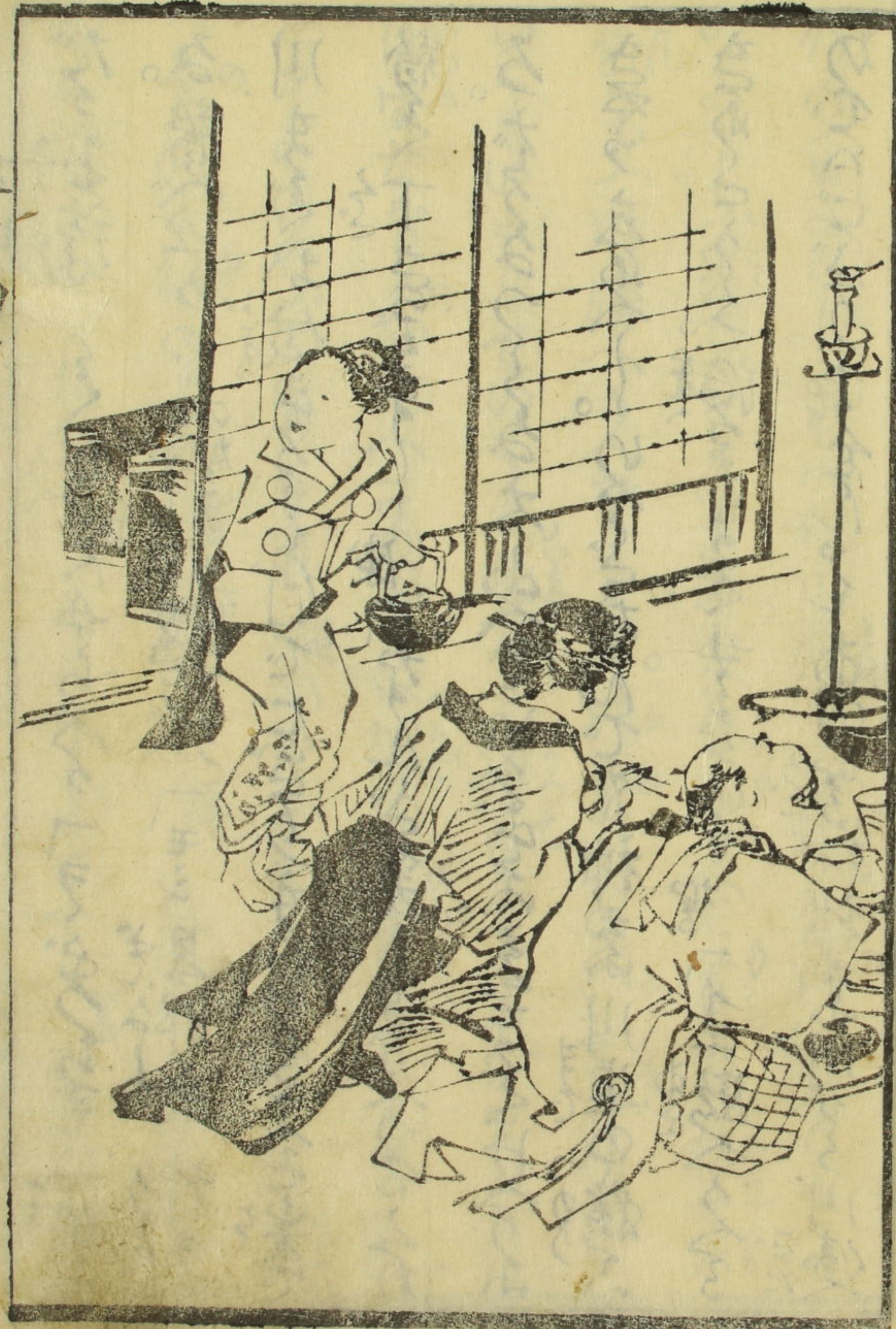
ままままののみみとといいふふ人人とといいふふ人人ののああららいいたためめのの福ふく

とといいふふ人人ののああららいいたためめのの福ふく

とといいふふ人人ののああららいいたためめのの福ふく

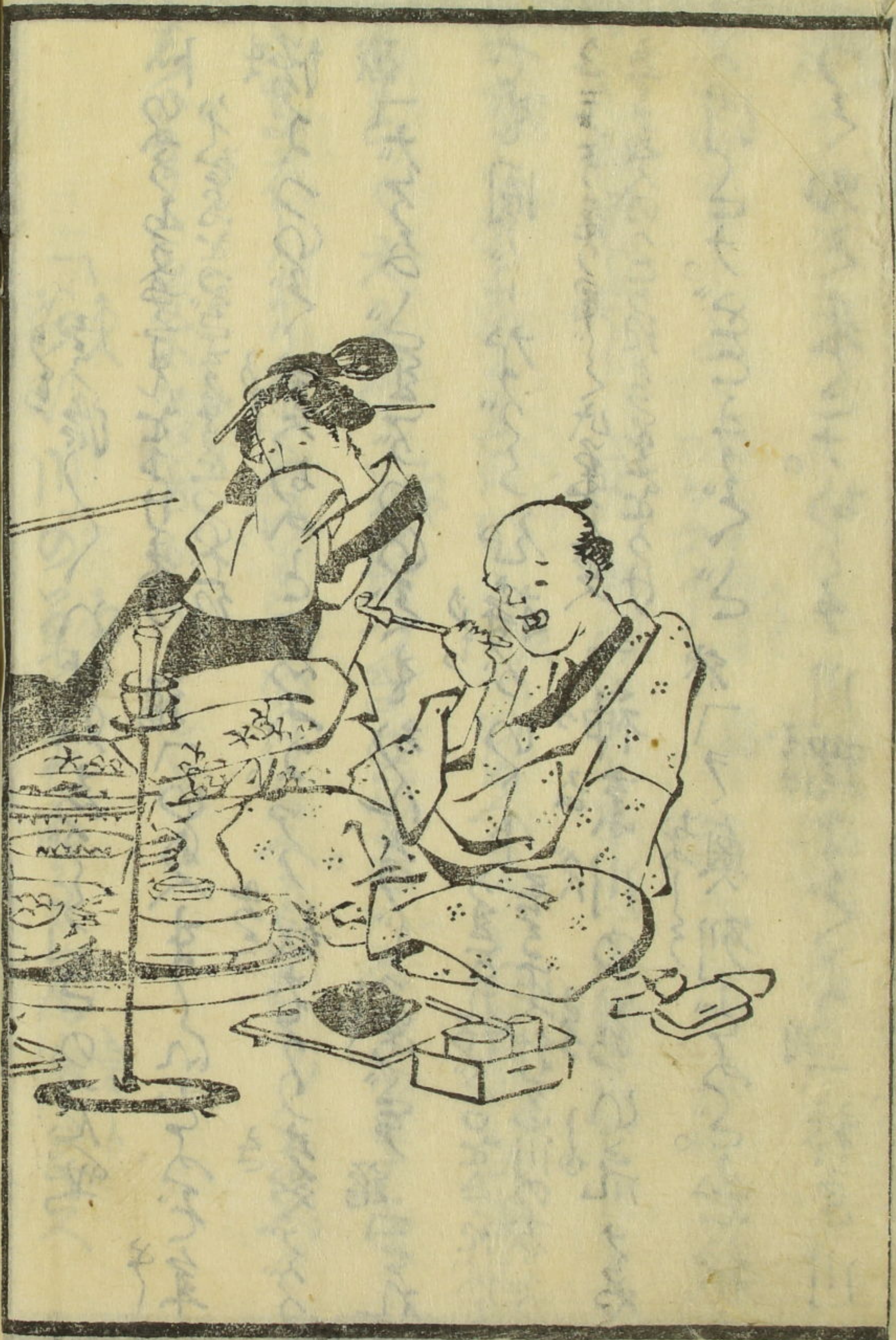
とといいふふ人人ののああららいいたためめのの福ふく

とといいふふ人人ののああららいいたためめのの福ふく



1201

1201



大山初下

1201

だがおぼろしく替へてからみる「ヲ」がびらも「二」様ご
 る。替へて「ト」の替へる「モ」は「モ」
 川まごおぼろしく替へて「ビ」がびらも「ゴ」を
 替へて「下」を「上」へ「ナ」なんご「ま」ろ「ろ」入つてくれ
 ろ。むろもつらむ大いりもいりもまままどけりふ
 さまつたあへり。しやごなんでも神奈川並の替へ
 さまつらろ。海まままどかまなり。替へ「上」路へく入る
 のむらびらろのまへん。そのあのかまの神奈川並の替へ

別の「こ」こへ「ま」もの川勝りく神奈川へめりも
 のごろろ。までもまもいさる方へままろて置くと私さ
 毛ろろ川勝へく入ります。神奈川のへおおは方を
 おまもろへて「く」と両方が勝るがようびらも
 自中かろろ。おまも入るまが「の」かまを替へて下さるは
 せやそのでびらも「徳」へてんまろ神奈川を
 の「の」中びら「の」ご「ナ」替へ「左」中「サ」福「そん」ろ「ご」の
 ても「い」やろ「な」ろ「徳」へ「そん」ろ「そ」ろ「そ」ろ「そ」ろ

ハナロ

ハナ

ぐいひひさうすまは左様うごどもそかきらんせりてん
 中世り 徳「マア先」ひらきもらぶやわたり 徳「正」まを
 ずのりま〜こ出勘定おびざうをひら〜これつう智の
 者〜つろま合ふり〜まは。あらしの目ねう〜も〜
 今ひさたまた 徳「そんが〜先」ひらてら母うわへせ
 加「ひさ〜」てま〜ひら〜も〜徳「〜」
 方ふ。風呂あも包もまらぐへめ入〜「ハイ〜」とまら
 ま〜こサアお徳をか〜ら〜らモウ〜 徳「ハイ〜」

な〜い〜へエト 川〜の〜の 加「ハイ姉さんお〜」
 めんる〜女〜い〜く〜あり〜う〜び〜の〜ま〜は〜あ〜
 る〜と〜も〜徳「〜」 且那お色ハこれ付々
 ま〜と徳利もろ〜ろふつ〜の〜あ〜ま〜は〜徳「ハイ〜」
 加「左〜」 左〜う〜の〜也機〜ん〜よ〜の〜あ〜な〜の〜ま〜。 加「〜」
 素川のて〜く〜の〜ひ〜 加「〜」 加「〜」
 徳「〜」 加「〜」 加「〜」
 門口のさる 亭 加「〜」 加「〜」

大山新下

三十一

がんよう入らんごうの元也くみん若野トはるせせ 倭にほんへんびくありくと

かろしもの 倭にほんへ左舟をひびりしはる日ひる感あはれうまみあるしはら

徳とくへそへしまさきひひしうらうト
をまのせうがのあつたれはるを
あつたれはるをまのせうがのあつたれはるを

かまの徳とくくま大まをよるしはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

ぬるさあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

まよるしはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

川くわ越こへると大滝おほたきしうらふ多おほとろあつたれはるあつたれはるあつたれはる

徳とくへそへしまさきひひしうらうト
をまのせうがのあつたれはるを
あつたれはるをまのせうがのあつたれはるを

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

あつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはるあつたれはる

神かみ宮みや川がわままぐぐ中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて

「神宮のロケットのまじり」

中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて

中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて
 中なかつののままををたたげげるるままののままををくく。除とけけて

三ノ丁敷のひも糸二編のまじりふし

大山道中膝栗毛初編下終 淨書 音成

東都 瀧亭鯉丈作

全 歌川國直画

天保三壬辰年初春

書林



